

アレルギーの 検査

アレルギーとは、体に入ってきた異物に過敏に反応し、そのために自分の体が傷んでしまう病状です。アトピー性皮膚炎、喘息、花粉症などはアレルギーの代表的な病気です。

その仕組みは複雑でまだ十分には解明されていませんが、子どものアレルギーにはIgE抗体が大きく関係しています。ここではこのIgE抗体について、説明いたします。



他のアレルギー検査

皮膚科ではよくパッチテストを行います。これは原因になりそうな物質を皮膚につけてみて、それに対する反応がどうかをしらべるものです。

食物アレルギーでは、怪しい食物を制限して症状が良くなるかどうか（除去試験）、逆にわざと与えてみて症状が出てくるか（負荷試験）をみることもあります。

年齢が大きくなるにしたがい、アレルギーの原因になる物質は増える傾向にあります。一つの検査で単純に分かることは少なくなり、いくつかの検査を組み合わせたり、繰り返して検査をすることが必要になることもあります。

アレルギーの検査は多くのものがありますが、子どものアレルギーの病気でもっとも関係があり、検査しやすいのは**IgE抗体**です。血液中にごく微量存在する免疫たんぱくです。

IgE-RISTは“総量”を見ています。生まれたときにはゼロに近く、年齢とともに次第に多くなっていきます。一定以上多いと、アレルギーの病気をもっている可能性があります。

IgE抗体-RASTは“中身”を見ています。これはアレルギーの原因になる物質との反応を見る検査で、反応が強いとアレルギーも強い可能性があります。食物をはじめ、他種類の項目を検査することができるので、診療上とても役にたっています。



●IgE-RAST検査の一例 (ある会社のセット検査)

ヤケヒョウヒダニ
動物上皮マルチ (ネコ、犬などの混合物)
花粉類 ：すぎ、ひのき、かもがや、ぶたくさ、よもぎ
カビ類 ：カンジダ、アスペルギルスなど
昆虫類 ：ガ、ゴキブリ
食物類 ：卵白、ミルク、小麦、大豆、そば、ピーナッツ

ラスト RAST検査とは

血液中にはアレルギーと特異的に結合するIgEと呼ばれる抗体が極微量(血液1ccに約0.005 μ g)に存在しています。IgE抗体はアレルギーごとに異なる性質をもっています。



例えば、ダニに対するIgE抗体はダニだけに、スギに対するIgE抗体はスギだけに反応する性質があります。RAST検査はIgE抗体のこのような性質を利用して、患者さんの血液からどのアレルギーに反応するIgE抗体を持っているかを見つける検査です。従って、RAST検査でダニのIgE抗体が陽性になったということは、ダニがアレルギーである可能性が極めて高いということです。

ラスト RAST検査の結果の読み方

RAST検査の結果はクラスまたは国際単位に準拠した(UA/mL)で表わされます。判定はクラス0を陰性、クラス1を疑陽性、クラス2以上を陽性とし、クラスの数値が大きいほどアレルギー症状を発現する可能性が高くなります。また、乳幼児やアナフィラキシーの症例ではクラス1のように小さな数値でも症状を発現することがあるので、検出感度の高い診断薬で検査する必要があります。

UA/mL	クラス
100<	6
50.0-100	5
17.5-50.0	4
3.5-17.5	3
0.7- 3.5	2
0.35-0.7	1
<0.35	0